

東京都 歯科医師会雑誌

6

2019 Vol.67

THE JOURNAL OF TOKYO DENTAL ASSOCIATION



ARTICLES

CAD/CAMクラウン、ワンランク上の接着を目指す!

富士谷盛興 3

TOPICS

第198回臨時代議員会報告 10

「東京デンタルフェスティバル2019 in 八王子」
開催のお知らせ 30

MEMBERS

オンエアー 寺田香織 (京橋) 40

寄稿 西原由恭 (荒川区) 43

付録

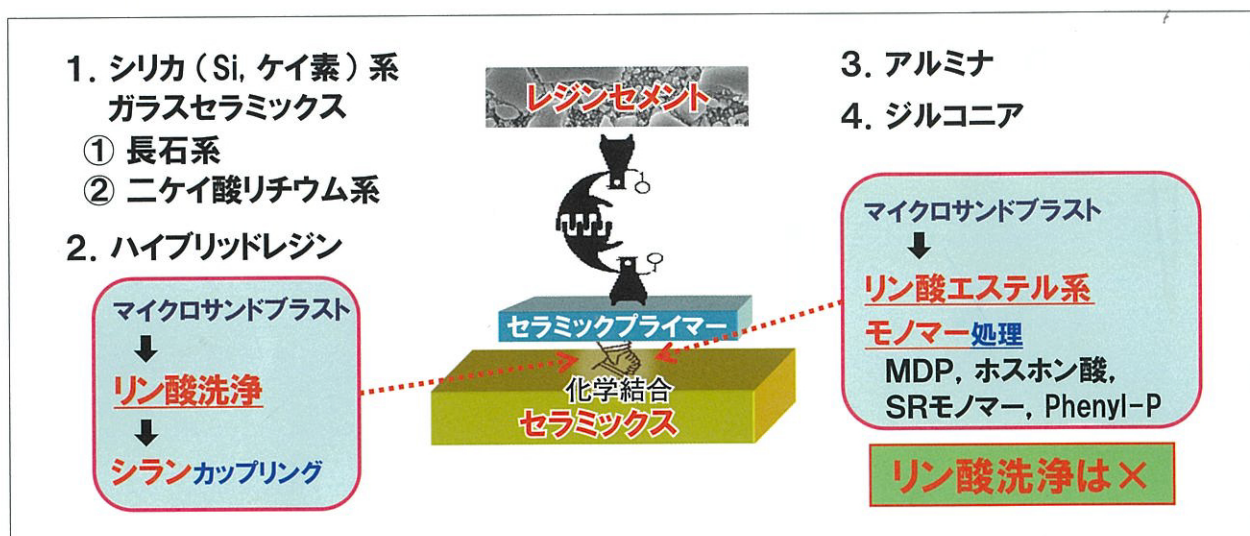
夏期休診のお知らせポスター



公益社団法人
東京都歯科医師会
<http://www.tokyo-da.org/>

ARTICLES

「CAD/CAM クラウン、ワンランク上の接着を目指す！」より (p. 5)



CAD/CAM クラウンの接着操作は非常に Sensitive, 適切かつ的確な接着処理・操作が求められる

代表的な 4 種の CAD/CAM クラウン用の材料。レジンセメント接着のための被着面前処理法として分類すると 2 種に大別される。すなわち、シリカ系ガラスセラミックスとハイブリッドレジン、および酸化アルミニウム（アルミナ）と酸化ジルコニウム（ジルコニア）に分類される。注意すべき点は、アルミナおよびジルコニアに対しては、リン酸洗浄は NG である。

TOPICS

「満月にいちばん近い10月の土曜日」より (p. 39, p. 41)



コナ 夜明けの海 長い1日が始まる



バイクパート 嬉しすぎて思わず笑顔になる

満月にいちばん近い 10月の土曜日

寺田香織 (京橋)

かつて、IRONMAN WORLD CHAMPIONSHIP はハワイ島のコナで、満月にいちばん近い10月の土曜日に開催されていました。IRONMAN WORLD CHAMPIONSHIP は通称「コナ」と呼ばれ、トライアスリートの多くが「いつかはコナ」と憧れるトライアスロン世界最高峰のレースで昨年40回大会を迎えました。

私がトライアスロンを始めたのは13年前。その時はまだコナの存在すら知らずに、ただスイム、バイク、ランを楽しんでいるだけの「なんちゃってトライアスリート」でした。それがだんだんとトライアスロ

ンにのめり込み、そしてコナの舞台に立つことになるとは当時夢にも思っていませんでした。

コナのレースに出場するためには、世界各地で年間40レース余り行われるアイアンマンレース（いわばコナの予選会）で出場権を獲得しなければなりません。レースは5歳刻みのカテゴリーごとに順位を争い、女子の場合、ほとんどのレースで1つのカテゴリーに1つの枠（スロット）しかないため、カテゴリー優勝することが最低条件になります。ただ、体格の違う欧米人とともに戦って優勝するのは至難の業です。

残念ながら日本には対象レースが

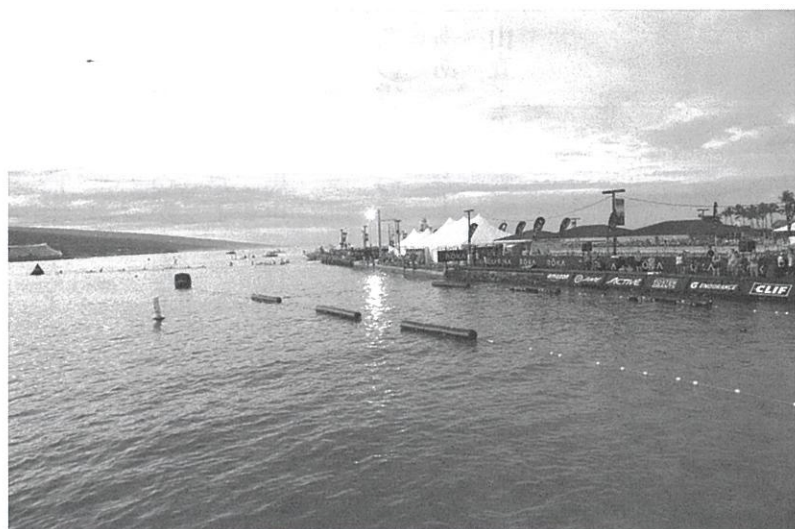
なく、私がスロットを獲ったのは2017年10月1日、台湾でのレースでした。当日の最高気温は38℃、日本なら「屋外に出てはいけません」と警告が出るような日でした。アジア特有の高温多湿、欧米人は大の苦手です。逆に日本人にとってはスロットを獲れる可能性が高くなるので、私もあえてこのレースを選びました。

とにかく暑い、でも走る。本当に変態としか言いようのない世界です。バイクが終わった時点で3位。前を走る白人女性を一人ずつ抜いて1位でフィニッシュ。もう1歩も動かなくていい……この安堵感。そして、コナへのスロットを獲った瞬間のどんなレースでも感じるものなかった高揚感。すべてが特別な感情でした。

2018年10月14日開催のコナに向け、仕事の合間をぬって練習を重ねてきた8月終りのあるレースで、突然左足が全く動かなくなりました。病院での診断結果は左大腿動脈塞栓症。コナどころかトライアスロンさえもう諦めなくてはならないと



2017年10月1日 アイアンマン台湾
コナへのスロットを獲った瞬間



コナ 夜明けの海 長い1日が始まる

※巻頭カラービュー参照



レースが始まる前の静寂



男子スイム2000人のスタート 凄まじい水中バトル

覚悟を決め、緊急手術を受けました。幸いにして手術は無事終わり術後の経過も順調でしたが、コナは1ヶ月後に迫っていました。主治医から練習再開の許可を得て、トレーニングをゆるゆる始めたのがレースの3週間前でした。ずっと、コナのレースは「人生で一番良いレースをしよう」と思っていたのですが「人生で一番楽しいレースをしよう」と気持ちの軌道修正をして、なんとかコナのスタートラインに立つことが出来ました。世界中から予選を勝ち抜いたたった2,400人のアスリートの中に自分がいること、そして1か月前には病院のベッドの上でいた自分がコナの地に立っていることが信じられませんでした。

コナの街のレースウィークはアイアンマンレース一色。街はアスリートに対するホスピタリティに溢れていて、歩いているだけで鳥肌が立つほどでした。

レース数日前にはスイム会場の沖合に船が浮かび、そこでコナコーヒーが振る舞われます。勿論その船まで泳いでいき、立ち泳ぎをしたまま差し出されたコーヒーを飲むのですが、これがなかなか難しい！若干塩辛いコーヒーでしたがこれもまた幸せな瞬間でした。

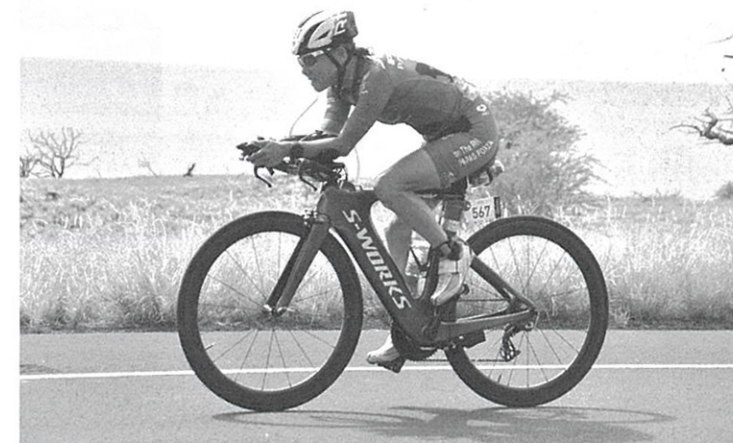
レース当日は夜明けの何時間も前から街は動き始めます。暗闇の中での準備を終え、陽が上ると同時に3.8キロのスイムが始まります。運が良ければウミガメと遭遇できるそうですが、片道1.9キロという距離なので目標が定まらず、蛇行しないように泳ぐだけで精一杯。それでも相当余分に泳いでしまったようです。

バイクは市街地を抜けるとクイーンズKというハイウェイをひた走ります。何キロも先まで見渡せる溶岩に囲まれた荒野を切り裂くハイウェイを延々と180キロ。何度も睡魔が襲ってきては自分の腿をつねったり、鼻歌を唄ったりしながら脚を動かし続けました。名物のコナウィンドと呼ばれる強風もこの日は吹き

荒れることなく、今この瞬間にコナの道をバイクで走っていることが幸せでたまらず、ずっとニヤニヤしていました。

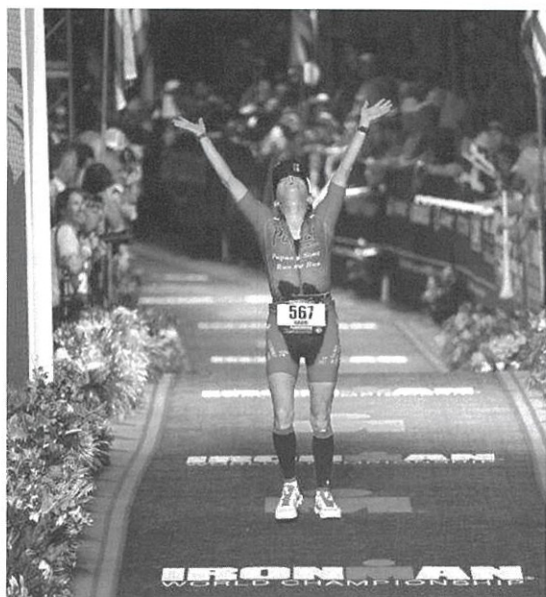
手術後に練習を復活したとはいえ、バイクは80キロを2回走っただけ、ランもコナに発つ3日前にようやく20キロ走れるようになったばかりの身体で、果たして180キロのバイクの後に42.2キロのランが走れるのか？コナに来るまでは感じていたそんな不安は、不思議なことにレース中一度も頭をよぎることがありませんでした。

ランパートに移ると、街中の人たちは「Good job!」の連呼で、足を止める隙を与えてくれません。嫌がおうにもテンションは上がりまく



バイクパート 嬉しすぎて思わず笑顔になる

※巻頭カラービュー参照



フィニッシュの瞬間 走りきれたことに感謝



フィニッシュ後 号泣する私にスタッフおろおろ

り、コナまで応援に来てくれた家族や友人とハイタッチをして市街地を後にすると、またもや何もないハイウェイ、クイーンズKを走るようになります。走り始めて15キロくらいすると陽が傾き始めあっという間に暗闇が訪れます。日本のような街路灯はほとんどなく、月明かりに照らされている道路の白線だけが真っ直ぐ走る目印になります。コナのレースが「10月の満月にいちばん近い土曜日」と決められたのは、月明かりを頼りにしないと走れないからなんだ…と、その時月を見上げながら思いました。が、世界のトップアスリート達はほとんど陽のあるうちにフィニッシュするのですから、これは私の思い込みにすぎないようです（笑）。

前を走る人も後ろを走る人もまばら、さらに30キロからの1時間は突然のスコールで全身ずぶ濡れ、シューズもぐちょぐちょ。それでもその道を走ってられる自分が嬉しくてたまりませんでした。フィニッシュが近づくと雨もやみ、市街地に戻るとそこはまた別世界。道の両脇

に幾重にも重なった人たちが出迎えてくれます。フィニッシュゲートに近づくにつれだんだん鼻の奥がツーンとしてきて、フィニッシュ後は心の底から込み上げるいろいろな感情で涙が溢れ出ていました。あれほど言葉に言い表せない思いがこみ上げたのは人生で初めてのことでした。

「コナのレースは世界中でその権利を勝ち取った選手が集う勝者たちの場所だから、長い長いウイニング

ランをじっくり楽しめばいい」友人からかけられたこの言葉をレース中何度も心の中で繰り返していました。この言葉が一度は諦めかけたコナに私を向かわせ、走らせてくれた気がします。

次にコナの地に立てるのはいつになるのかはわかりません。でもいつか、またあの海と風と大地の香りを全身で感じたいと心から思います。そう、いつか必ず。

2018年11月11日 エイジ日本選手権
次のコナへ向けて始動